

日本三名泉の美肌湯、驚くほど多彩な客室群、5種の選べる美食。
その規模とおもてなしの陣容はまさに日本の伝統宿の王道。

水明館

「岐阜県／下呂温泉」

日本を代表する温泉地、下呂温泉へは列車の旅が印象深い。名古屋から快適なワイドビューひだ号で約1時間半。ひだ号は途中から飛騨川と並走するため、車窓の左右に峡谷美が次々と展開し、目を飽きさせない。流れゆく水は溪谷沿いの緑を映し、時にゆったり、時に急峻に表情を変えていく。初夏にはイワツツジなども可憐な姿を見せる。流域一体は飛騨木曾川国定公園区域の河川公園で、下呂の手前には天然記念物に指定されている飛水峡罅穴群などの景勝地もある。地質学的にはこの流域は中生代の三畳紀からジュラ紀に属しているという。飛騨川を遡りながら日本三名泉のひとつに数えられる下呂温泉の歴史を思う。

下呂駅に到着するとすぐ、飛騨川沿いに水明館が見える。歩いて3分ほどだが近づくほどに大きな旅館だと感じ入る。宿姿が何とも美しく、川べりの桜が咲き誇る頃の偉容が最も絵になるという。建物は手前から順に『山水閣』『飛泉閣』『臨川閣』、その奥に離れ『青嵐荘』が位置している。仲居さんたちの出迎えに思わず照れも生じるが、その笑顔、その所作に感謝の気持ちがいかにじみ出ていることも気づく。水明館は昭和7年の創業。爾来90年近く、日本の宿文化を頑なに守り続けながらもてなしに磨きをかけてきた。「自然の恵みに感謝し、先人の築かれたものを守り、未来を担う若人にも愛される温泉地でありたい」と女将も語っている。飛泉閣にあるフロント・

ロビーに佇んでいると、年配のカップルをはじめ、高齢の両親を伴った方たちに混じって笑顔でくつろぐ若者たちの姿も数多く目にする。収容人員が多い宿ではあるが、宿泊する人すべての目的を叶える手伝いをするのが宿の使命。旅は人生におけるほんの一瞬のことかもしれないが、その人たちがすべてに大きな満足感を持ち帰ってもらうために宿は多くの犠牲と努力を払う。誰もが認めるもてなしの歴史はそうやって培われてきたのである。事実、日々多くの宿泊客を迎える宿でありながら、以前泊まった方の顔や名前を覚えているスタッフも多いと聞く。あっぱれなものである。

チェックイン後のひととき、窓いっぱいには日本庭園のパノラマが広がるロビーラウンジ「エビアン」でホッとくつろぐ。目に映るのは飛騨に移ろう季節の彩りや合鴨が遊び鯉が泳ぐ池の優しげな佇まい。紅葉や雪見の頃に訪れたらどんな景色だろう、再訪も心に浮かぶ。樺の一本柱や飛騨の天然木などが施された空間の落ち着いた心地良い。ここではパティシエが地元食材を用いて手作りする宿オリジナルの美肌スイーツが人気だという。滞在の中の楽しみになりそう。水明館は14時チェックイン、翌日は11時のチェックアウト。滞在時間が長いから何をすることもあくせくしなくいい。おまけに館内には様々な施設が控えているから気の赴くままに過ごせる。多くの宿泊客を集める理由がそこにもある。



飛騨川沿い一万余坪の敷地に立つ水明館。写真は臨川閣



庭園の池



すばらしい日本庭園を眺めるロビーラウンジ「エビアン」



飛騨川越しに臨む水明館

ピュアな温泉の効能を 趣が異なる3タイプの 湯殿で堪能。

下呂温泉の歴史をひもとくと、延喜年間（901～923年）に発見され、江戸時代には万病を治す名湯として年間3万人もの湯治客が訪れたと伝えられている。また応仁の乱の頃に初めて全国に紹介され、江戸時代には儒学者林羅山が書で「下呂は草津、有馬と並ぶ三名泉」と称えている。宿名は「水に明けゆく湯の煙」という温泉掘削に成功した当時の情景描写から名付けられているが、その謂われどおり、宿泊客誰もが賞賛する温泉で癒しの時間を紡いでいる。

全館の浴槽に配されているのは飛騨川地中深くから湧出する天然温泉。加温されていないピュアな温泉だ。女性に印象を聞くと「ヌルッとしているけど湯上がりにさっぱりする」「化粧水や美容液のよう」という。乾燥の時期、カサカサだった全身がたった一度の入浴で改善された人もいたそうだ。三名泉の



下留の湯



龍神の湯



観音の湯

意味を肌が教えてくれる。人気は臨川閣3階にある『下留しもどめの湯』。天井や壁、柱にまで檜にこだわった豪華な大浴場で、グループ客がいても気にならないほどの広さだ。庭眺めの湯としても楽しめる、高温浴槽や低温浴槽、檜風呂、サウナなどを併用しながら疲れをリフレッシュできる。飛泉閣9階には夜になると灯り瞬く下呂の街を一望する展望大浴場がある。24時間いつでも入れるのが嬉しい。同階にはマントを纏ってデトックス効果を促進する「よもぎ蒸し」が人気のエステもあり、かの楊貴妃も愛したという健康美容効果を体感できる。早朝には山水閣1階の野天風呂へ。内風呂の「ぼたん風呂」を備えた男性用『龍神の湯』と女性用『観音の湯』があり、爽快なお目覚め入浴が叶う。山あいに吹き渡る風を感じながらゆったりとした湯船に浸かり、木々の緑や巨岩を眺めるひとときも贅沢なものである。

独自の館内ツアーで堪能する 珠玉の芸術作品や施設群

滞在中、随所に芸術作品が飾られていることを不思議に思うことだろう。特に臨川閣には貴重なコレクションが多く、名だたる芸術家諸氏の珠玉の作品が展示されている。例えば人間国宝の陶芸家加藤卓男氏によるラスター彩陶器作品「泉郷に憩う」がある。氏は滅び去った幻の名陶ラスター彩の復元に努め、青釉、三彩、ペルシア色絵など高い芸術性を持つ異民族の文化と日本文化との融合に成功したことで知られる。その技法を受け継ぐ長男、加藤幸兵衛画伯の絵画「山懐想」もある。その他にも日本画家中島千波画伯の大作「苗代桜」「臥龍桜爛漫」、長崎の平和祈念像で知られる現代彫刻界の巨匠北村西望氏による「自由之女神像」、横山大観や岡倉天心が設立した日本美術院に名を連ねる川合玉堂画伯の文化勲章受章の書「千古一昏暁」なども目を惹く。非常に価値のある作品ばかりだ。夕方にはこれらの芸術品のすべてを熟知した元支配人の案内でめぐる約1時間の鑑賞ツアーが実施され人気を集めている。ツアーでは1080㎡の大宴会場「朝陽の間」にある高さ6.5mの空間を照らすシャンデリアや加藤東一画伯の原画を基に制作された緞帳、屏風絵のような庭園を眺める『石橋の間』などもめぐる。石橋の間には観世流能楽師・関根祥六師監修の本格的な能舞台があり、樹齢500年の木曾檜の鏡板には法隆寺聖霊院の「蓮池水禽図」の修復などで知られる林功氏による老松や若竹が描かれている。必見であることはいままでもない。



人間国宝の陶芸家加藤卓男氏による大作「泉郷に憩う」



朝陽の間



臥龍桜爛漫



能舞台「石橋の間」



山水閣にある画廊「大観の間」

和みに満ちた客室は、 一般的な和室から 別邸風空間まで多彩。

水明館は部屋の選択肢が多い。同行者、人数、泊数、静養、祝い事など条件や目的に応じてもきつと好みの部屋が見つかる。加えて料理の選択肢も多く、組み合わせによって自分本位の旅を叶えることができる。まず、フロント棟でもある9階建の飛泉閣。この棟には下呂の街並みや飛騨川を一望する和室をはじめ、リビングやツインベッドルーム、天然温泉の内風呂を備えた特別室、ソファやテーブルを備えたりビング付和室、木の香あふれる完全禁煙の和洋室、セミダブルのシングル洋室がある。最上階の眺め自慢の展望大浴場やエステ、1階のバーにいつでも足を運べる便利さだ。5階建、野天風呂や料飲施設を階下に控えた山水閣でのお勧めは1階に3室、4階に1室の特別室。温泉を讚える内風呂の心地良さや日本庭園へのベストアングルでの眺めを満喫しながら心静かに過ごせると好評だ。その他にも庭園を眺める和室、ツインベッド和洋室、スタイリッシュな10室限定の完全禁煙和洋室、禁煙18室のモダンなインテリアと完全フラットフロアのツイン・トリプル和控え、特別室と多彩な間取りが揃う。1階の『すいめいヘルスクラブ』には電動開閉式の天井からの陽射しが降り注ぐ25m温泉プールが5コース。アクアビクスと水中健康体操の無料レッスンもあって日頃の運動不足も解消できる。クラブは厚労省指定の指定運動療法施設。健康運動指導士による無料レッスンや健康づくりのアドバイスも嬉しい。水着などのレンタルもある。

12階建の臨川閣は全室が高野槇の室内温泉風呂を備えた高品質空間で眺めも絶好。バルコニー付客室は、和室が踏込みと12・5畳間付の63㎡と、踏み込みに12・5畳間と次の間付の83㎡、和洋室が12・5畳間とベッド2台を備えた8畳間付の83㎡と驚くほど広く、女子旅などでの利用に申し分



臨川閣貴賓室「蓬萊の間」



離れ青嵐荘「夕顔の間」



山水閣リニューアル和洋室



臨川閣露天風呂付客室。
総檜造りのバルコニーに織部焼の陶器の浴槽を備える



山水閣特別室



山水閣特別室



離れ青嵐荘「葵の間」

ない。高層階の露天風呂付客室4室もい。陶器の露天風呂では源泉掛け流しの醍醐味を堪能できる。最上階には屋敷さながらの貴賓室。210㎡の大空間に和室、洋間、書院風控への間、ベッドルーム、高野槇と大理石の2種類の風呂、バルコニーを備え、一度はこんな部屋に…と思わせる豪華さである。この棟には宿泊者専用の大浴場とプライベートな貸切風呂があつて、身近に使えるから嬉しい。

日本画壇の重鎮川合玉堂画伯の命名による「青嵐荘」は日本建築の粋を集めた別邸、宿最高峰の空間である。昭和28年に旅館として誕生した数寄屋造りの建物を復元したもので、1階に高野槇の野天風呂を備えた2室、2階に温泉による床暖房を備えた3室がある。見るべきは部屋名に因んだ手摺版画の京唐紙や引手、源氏物語に因む香りの符号「源氏香図」を彫り込んだ透かしなど見事なまでの意匠だ。建具は四季折々に衣替えするとういう。眺める日本庭園や茶室の風情もすばらしい。まさに日本建築の美の結晶である。こんな贅沢な空間に泊まれる機会はなかなかないものだ。



旬の食材を使った前菜

個性的な食空間と 驚きに満ちた美食。 選択肢は5種から。

美食の追求にも余念がない宿。その充実度には目を見張る。地元食材もレシピを変えするなど自由な発想でバラエティを広げている。選択肢は「部屋食」「ダイニング常磐」「料理茶屋 北乃寮」「欧風レストラン バーデンバーデン」「チャイナルーム 龍遊里」の5種。単純に考えればグルメ気分満喫の5連泊が叶う。部屋食は総料理長が手間暇かけて作った出汁を使い、一品一品手作りした正統の日本料理。『ダイニング常磐』は料理風景のライブに心躍らせる食空間だ。和洋のオープンキッチンで出来たての和洋折衷料理を満喫できる。朝食バイキングでは煮たくなど飛驒の味も楽しめる約30種の献立だ。民家風の『北乃寮』は懐かしい飛驒の味がテーマ。名物飛驒牛を中心とした会席料理を囲炉裏やカウンター、個室座敷で楽しめる。気の置けない人と地酒を酌み交わしながら、そんな願いも叶えてくれる。レンガ造りの『バーデンバーデン』はゆっくりと飛驒牛料理やフレンチコースが楽しめる欧風レストラン。下呂でここでしか味わえないのが『龍遊里』の高級食材を用いた広東料理にスーベルシノワのエッセンスを加えた中国料理のフルコース。地元食材もここまで味が変わるのかと嘆息する。食後には飛驒民家風バー『マローネ』や『クラブ樹里苑』でのひとときも楽しい。夜食なら『龍遊里』へ。麺類や飛驒納豆喰豚料理、点心などが用意されている。ラストオーダーは23時半だ。翌朝の出発前にはお土産探し。売店の他、朝市も立つ。次はいつ来ようか。チェックアウトを待つ人たちもきつと、そんなことを思っているのかもしれない。



チャイナルーム「龍遊里」



欧風レストラン「バーデンバーデン」



彩り豊かなフレンチ



料理人の力量が現れる「お吸い物」



ダイニング常磐



丁寧に手づくりされた日本料理



料理茶屋「北乃寮」



岐阜県／下呂温泉

水明館

◆建物/飛泉閣：鉄筋9階建、山水閣：鉄筋5階建、臨川閣：鉄筋12階建、青嵐荘：木造2階建 ◆客室/和室162・洋室26・和洋室76（内、露天風呂付6、計264室） ◆全室バス・シャワー付 ◆食事/夕食：和食・洋食・中華、朝食：和食・バイキング ◆食事場所/夕食：客室（6人まで）・レストラン（250人まで）・料亭（60人まで）・会食場（600人まで）、朝食：客室・レストラン・会食場 ◆館内施設/宴会場（23室、10～500畳）、コンベンションホール（1,000人）、料亭（1室）、レストラン（260席）、カラオケ（5室）、クラブ、バー、ティーラウンジ、ゲーム、売店、エステサロン、結婚式場 ◆料金/16,500円～90,000円（税別） ◆チェックイン14:00、チェックアウト11:00 ◆日帰り入浴/1,100円（税込、10:00～18:00） ◆Wi-Fi使用可/全館・ロビー・客室・その他

【住所】〒509-2206 岐阜県下呂市幸田1268 【電車】JR高山本線下呂駅下車、徒歩約3分 【自動車】中央自動車道中津川ICから国道257号線、約55km 【飛行機】中部国際空港からタクシー約150分 【駐車場】乗用車200台・大型20台 【送迎】下呂駅

TEL: 0576-25-2800 FAX: 0576-25-4520
www.suimeikan.co.jp

創業以来大切にしているコト・モノ

- 處世十訓（しよせいじゅうくん）
「處世十訓」は、初代の社長が書き残された處世訓で、初代の社長の生き方そのものを表しています。
- 一、強く正しくにこやかに
 - 一、上見て進め下見て暮せ
 - 一、真剣の前に不能なし
 - 一、論で負けても行で勝て
 - 一、長所と交われば悪友なし
 - 一、話上手よりも聞き上手
 - 一、己に克つて人には譲れ
 - 一、急ぐな休むな怠るな
 - 一、向上の一路に終点なし
 - 一、仲良く働け笑って暮せ